

フィジカルAI覇権競争：日本の「勝ち筋」と2040年への戦略

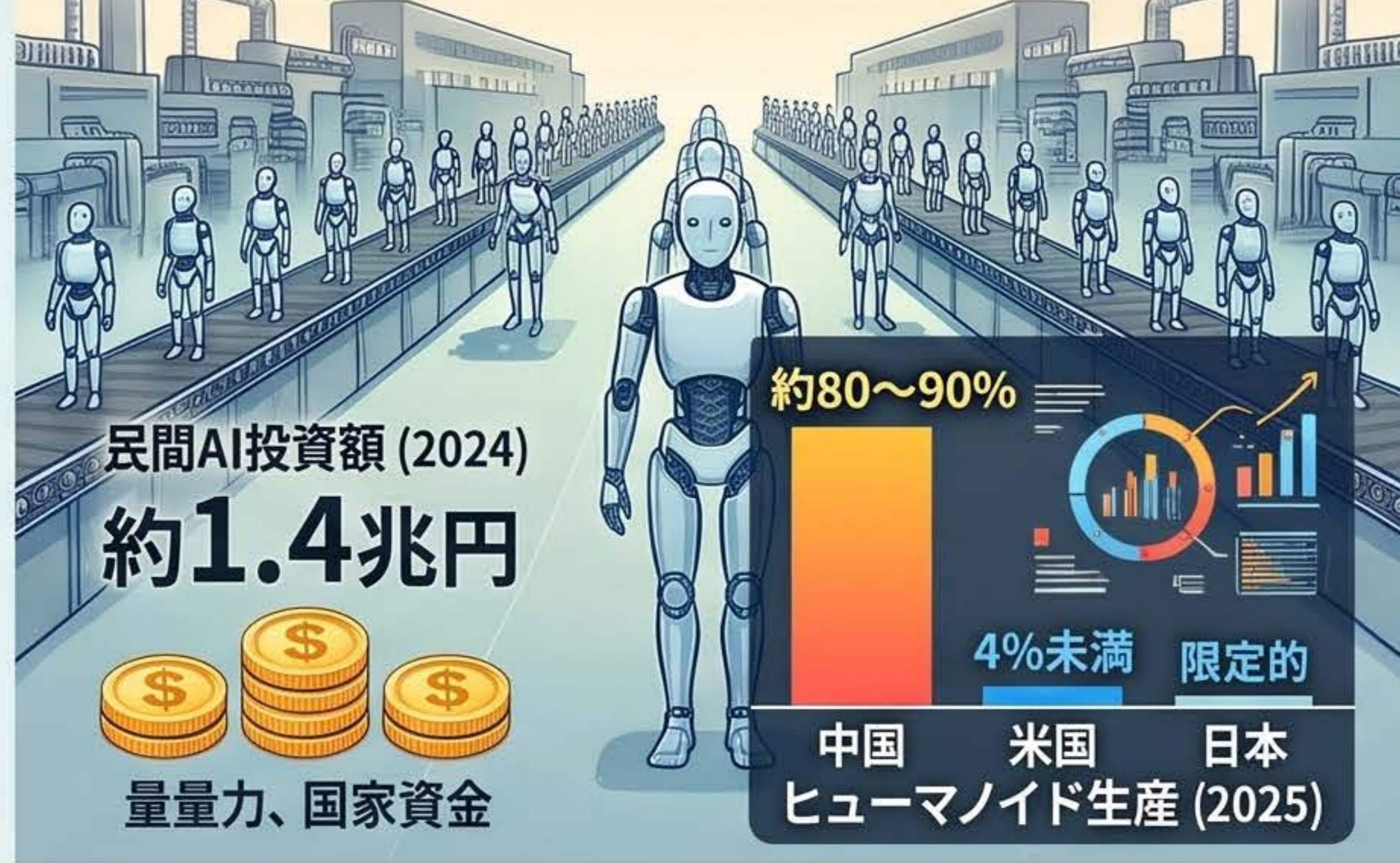
米国の「ソフト・基盤」
NVIDIA等のプラットフォームを制制

民間AI投資額 (2024)
約16兆円

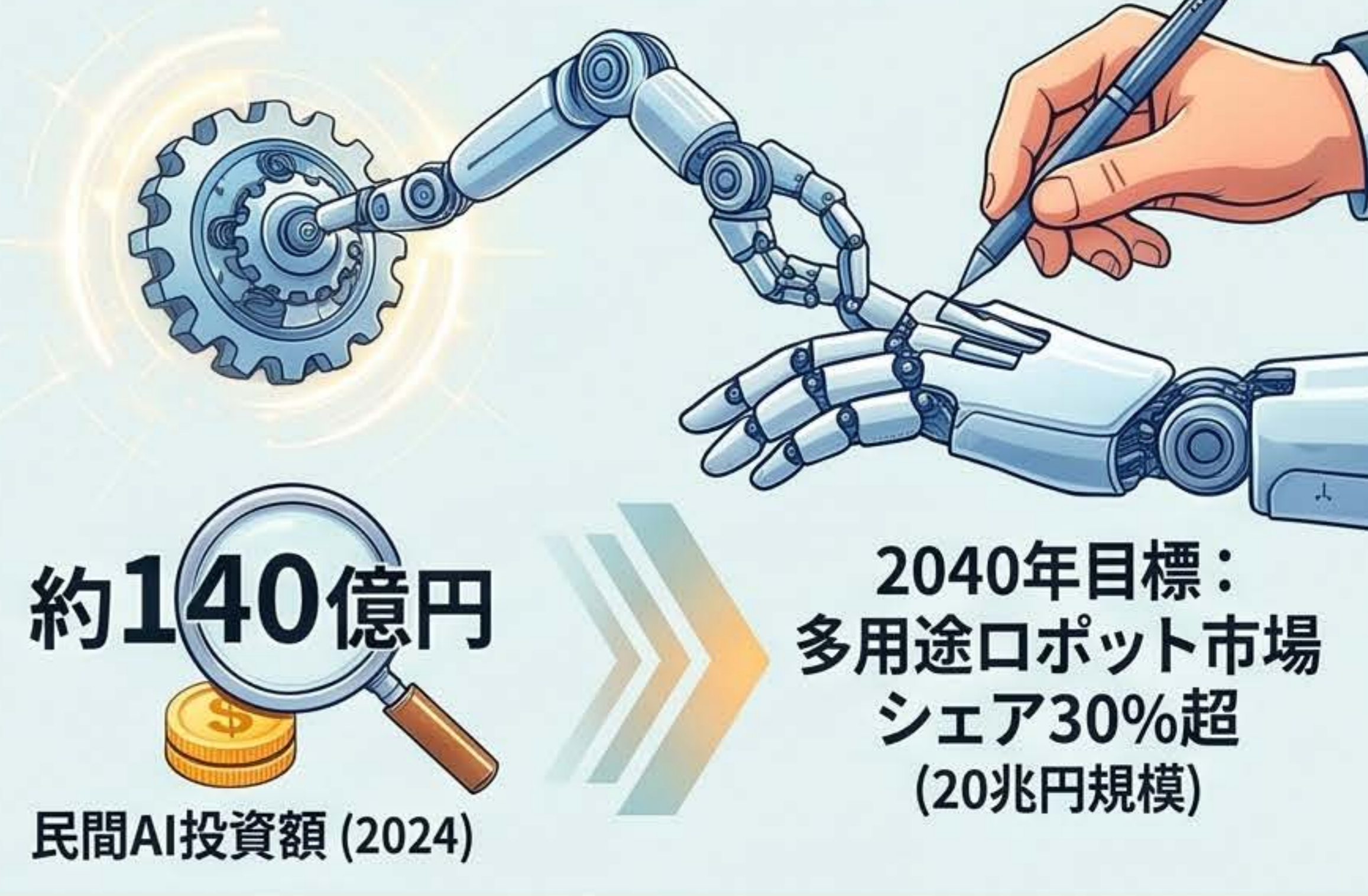


AI基盤、プラットフォーム

中国の「圧倒的量产力」
ヒューマノイド生産シェア約90%



日本の現在地と2040年の目標
精密部品、現場知を武器に



精密部品での「不可欠な供給者」
精密シェアの大半を得る精密減速機やモーターで、プラットフォームに依存しない強みを維持

日本が進むべき「非対称な勝ち筋」



「現場知」のデータ資産化とライセンス展開
日本特有の職人技や介護の所作をAI学習データ化し、国産モデルのコア資産に



課題先進国を活かした「第三の道」
介護・災害対応・インフラ保守など、高信頼性が求められるニッチ寄付価値市場に特化